

令和6年9月3日

予察情報6-10

病害虫発生予察情報 第6号

富山県農林水産総合技術センター所長

9月の病害虫発生予報

作物名	病害虫名	発生量	発生時期	作物名	病害虫名	発生量	発生時期	
水稲	いもち病（穂いもち）	並	—	野菜	白ねぎ	さび病	並	—
	斑点米カメムシ類		—			軟腐病	並	—
	アカヒゲホソドリカスミカメ	並	—			白ねぎの黒斑病・葉枯病	並	—
	アカスジカスミカメ	多い	—			ネギアザミウマ	多い	—
	トゲシラホシカメムシ	多い	—			ネギハモグリバエ	少ない	—
	クモヘリカメムシ	多い	—			シロイチモジヨトウ	並	—
	ツマグロヨコバイ	多い	—			果樹	果樹全般	果樹のカメムシ類
	ヒメトビウンカ	並	—	りんご	褐斑病		並	—
	セジロウンカ	多い	—		炭疽病		やや少ない	—
	トビイロウンカ	並	並		ハダニ類		やや多い	—
コブノメイガ	多い	—	カイガラムシ類		多い		—	
大豆	紫斑病	やや多い	—		日本なし		黒星病	やや少ない
	フタスジヒメハムシ	多い	—	ハマキムシ類			多い	—
	アブラムシ類	やや少ない	—	ナシヒメシンクイ			多い	—
	ハスモンヨトウ	並~ やや多い	—	ハダニ類			並	—
	大豆吸蜜性カメムシ類	多い	—	カイガラムシ類			多い	—
	ハダニ類	並	—	ぶどう		べと病	並	—
野菜全般	ハスモンヨトウ	並~ やや多い	—	かき	フジコナカイガラムシ	並	—	
	ネキリムシ類	多い	—	もも	せん孔細菌病	並	—	
	タバコガ類	少ない	—		灰星病	並	—	
花き球根				きく	きくのアブラムシ	少ない	—	
				花き全般	ハスモンヨトウ	並~ やや多い	—	
					タバコガ類	少ない	—	

<p>発生量</p> <p>多い : 平年比 141%以上</p> <p>やや多い : 平年比 121%以上 140%以内</p> <p>並 : 平年比 80%以上 120%以内</p> <p>やや少ない : 平年比 60%以上 79%以内</p> <p>少ない : 平年比 59%以下</p>	<p>予報時期</p> <p>早い : 平年値より 6 日以上早い</p> <p>やや早い : 平年値より 3~5 日早い</p> <p>並 : 平年値を中心として前後 2 日以内</p> <p>やや遅い : 平年値より 3~5 日遅い</p> <p>遅い : 平年値より 6 日以上遅い</p>
<p>予報の根拠中の</p> <p>(+) : 発生量が多くなる要因、(±) : 平年並み発生要因、(-) : 少なくなる要因</p> <p>(早発) : 発生が早くなる要因、(並) : 平年並になる要因、(遅発) : 遅くなる要因 をそれぞれ示す。</p>	

I 水 稻

1 いもち病（穂いもち）

- (1) 予報内容 発生量：並
- (2) 予報の根拠
- ・ 8月20日調査の葉いもち発病株率は0.0%で、平年(0.0%)並であった。(±)
 - ・ 9月30日にかけての気温は高く、降水量は平年並と予想されている。(±)
- (3) 防除対策
- ・ 防除指針 32～33 ページ参照



図1 穂いもちり病穂

2 斑点米カメムシ類（アカヒゲホソミドリカスミカメ）

- (1) 予報内容 発生量：並
- (2) 予報の根拠
- ・ 8月20日調査の本田すくい取り虫数は0.05頭で平年(0.19頭)より少なく、確認地点率も2.2%で平年(5.3%)より低かった。(－)
 - ・ 9月30日にかけての気温は高いと予想されている。(＋)
- (3) 防除対策
- ・ 晩生品種については、防除終了後もカメムシ類の侵入がみられる場合は追加の防除を行う。
 - ・ 防除指針 42、44ページ参照



図2 アカヒゲホソミドリカスミカメ

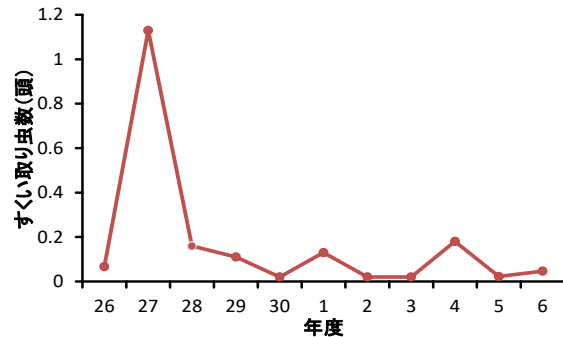


図3 アカヒゲホソミドリカスミカメの畦畔・雑草地すくい取り状況年次推移（8月20日調査）

3 斑点米カメムシ類（アカスジカスミカメ）

- (1) 予報内容 発生量：**多い**
- (2) 予報の根拠
 - ・ 8月20日調査の本田すくい取り虫数は0.33頭で、平年（0.13頭）より多く、確認地点率は11.1%で平年（6.2%）より高かった。（+）
 - ・ 9月30日にかけての気温は高いと予想されている。（+）
- (3) 防除対策
 - ・ アカヒゲホソミドリカスミカメの防除対策に準ずる。
 - ・ 防除指針 42、44ページ参照



図4 アカスジカスミカメ

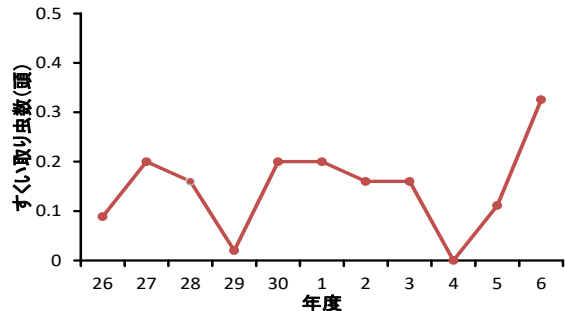


図5 アカスジカスミカメの畦畔・雑草地すくい取り状況年次推移（8月20日調査）

4 斑点米カメムシ類（トゲシラホシカメムシ）

- (1) 予報内容 発生量：**多い**
- (2) 予報の根拠
 - ・ 8月20日調査の本田すくい取り虫数は0.09頭で、平年（0.07頭）よりやや多く、確認地点率は6.7%で平年（4.4%）より高かった。（+）
 - ・ 9月30日にかけての気温は高いと予想されている。（+）
- (3) 防除対策
 - ・ アカヒゲホソミドリカスミカメの防除対策に準ずるとともに、本種が優先するほ場においては、有機リン系剤等で防除する。
 - ・ 防除指針 43、44ページ参照



図6 トゲシラホシカメムシ

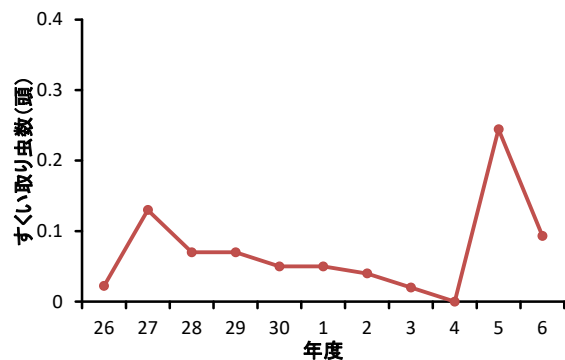


図7 トゲシラホシカメムシの畦畔・雑草地すくい取り状況年次推移（8月20日調査）

5 斑点米カメムシ類（クモヘリカメムシ）

- (1) 予報内容 発生量：**多い**
- (2) 予報の根拠
 - ・ 8月20日調査の本田すくい取り虫数は0.56頭で、平年（0.11頭）より多く、確認地点率も13.3%で平年（3.1%）より高かった。（+）
 - ・ 9月30日にかけての気温は高いと予想されている。（+）
- (3) 防除対策
 - ・ 農薬散布後も水田内に斑点米カメムシ類がみられる場合は追加防除を実施する。
 - ・ 防除薬剤はカスミカメムシ類に準じ残効性の高い薬剤が有効である。
 - ・ 防除指針 42～45ページ参照



図8 クモヘリカメムシ

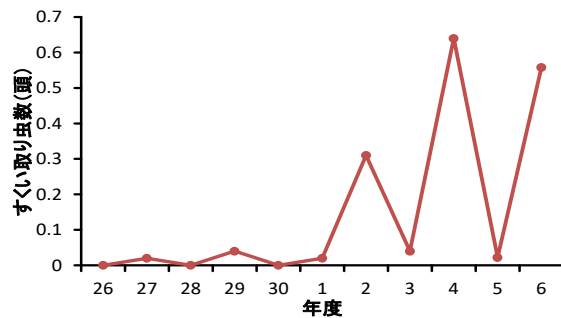


図9 クモヘリカメムシの畦畔・雑草地すくい取り状況年次推移（8月20日調査）

6 ツマグロヨコバイ

- (1) 予報内容 発生量：**多い**
- (2) 予報の根拠
 - ・ 8月20日調査のすくい取り虫数は20.6頭で、平年（15.7頭）より多かった。（+）
 - ・ 9月30日にかけての気温は高いと予想されている。（+）
- (3) 防除対策
 - ・ 防除指針 39ページ参照



図10 ツマグロヨコバイの雌成虫（上）と雄成虫（下）

7 ヒメトビウンカ

- (1) 予報内容 発生量：**並**
- (2) 予報の根拠
 - ・ 8月20日調査の本田すくい取り虫数は20.5頭で、平年（75.1頭）より少なかった。（-）
 - ・ 9月30日にかけての気温は高いと予想されている。（+）
- (3) 防除対策
 - ・ 防除指針 40～41ページ参照



図11 ヒメトビウンカ雌成虫

8 セジロウンカ

- (1) 予報内容 発生量：**多い**
- (2) 予報の根拠
- ・ 8月20日調査の本田すくい取り虫数は10.4頭で、平年(3.0頭)より多かった。(+)
 - ・ 9月30日にかけての気温は高いと予想されている。(+)
- (3) 防除対策
- ・ 防除指針 40～41ページ参照



図12 セジロウンカ雄成虫

9 トビイロウンカ

- (1) 予報内容 発生量：並
発生時期：並
- (2) 予報の根拠
- ・ 現在、発生は確認されていない(平年の初発は8月31日)。(±、並)
- (3) 防除対策
- ・ 防除指針 40～41ページ参照



図13 トビイロウンカ成虫

10 コブノメイガ

- (1) 予報内容 発生量：**多い**
- (2) 予報の根拠
- ・ 8月5日調査の上位2葉被害葉率は0.03%で、平年(0.00%)より多かった。(+)
- (3) 防除対策
- ・ 晩植田で多発することが多いので注意する。
 - ・ 防除指針 41ページ参照

Ⅱ 大豆

1 紫斑病

- (1) 予報内容 発生量：やや多い
- (2) 予報の根拠
- ・ 7～8月の気温は平年に比べ高く、降水量は平年並であった。(＋)
 - ・ 9月30日にかけての気温は高いと予想されている。(＋)
 - ・ 9月30日にかけての降水量は平年並と予想されている。(±)
- (3) 防除対策
- ・ 多湿ほ場で発生が多いので、降雨後スムーズに排水されるよう、溝の手直しや連結、排水溝の掘り下げなど排水対策を徹底する。
 - ・ 刈遅れは発病を助長するので、適期刈り取りを徹底するとともに、収穫後は速やかに乾燥する。
 - ・ 防除指針 54 ページ参照



図 14 紫斑粒

2 フタスジヒメハムシ

- (1) 予報内容 発生量：多い
- (2) 予報の根拠
- ・ 8月25日調査の払い落とし虫数は0.86頭で、平年(0.18頭)より多かった。(＋)
- (3) 防除対策
- ・ 払い落とし調査を行いほ場での発生推移を確認し、第2世代成虫の発生初期から盛期(9月上旬頃)までに防除する。
 - ・ 防除指針：57 ページ参照



図 15 フタスジヒメハムシ成虫

3 アブラムシ類

- (1) 予報内容 発生量：やや少ない
- (2) 予報の根拠
- ・ 8月25日調査の寄生株率は0%で、平年(2.6%)より低かった。(－)
 - ・ 9月30日にかけての気温は高いと予想されている。(＋)
 - ・ 9月30日にかけての降水量は平年並と予想されている。(±)
- (3) 防除対策
- ・ 防除指針：56 ページ参照



図 16 葉に寄生するアブラムシ

4 ハスモンヨトウ

(1) 予報内容 発生量：並～やや多い

(2) 予報の根拠

- ・フェロモントラップによる6月5半旬～7月2半旬の第一世代成虫の誘殺数は平年より多かった。(＋)
- ・フェロモントラップによる7月5半旬～8月4半旬の第二世代成虫の誘殺数は162頭で、平年並(189頭)であった。(±)
- ・9月30日にかけての気温は高いと予想されている。(＋)

(3) 防除対策

- ・防除指針 57 ページ参照



図 17 ハスモンヨトウ幼虫

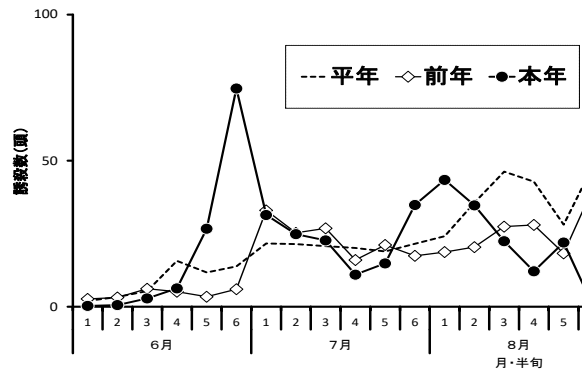


図 18 ハスモンヨトウのフェロモントラップ誘殺数推移

5 大豆吸実性カメムシ類

(1) 予報内容 発生量：多い

(2) 予報の根拠

- ・8月25日調査の1条間1.8m払い落とし虫数の合計頭数は0.24頭で、平年(0.13頭)より多かった。(＋)
- ・9月30日にかけての気温は高いと予想されている。(＋)
- ・9月30日にかけての降水量は平年並と予想されている。(±)

(3) 防除対策

- ・令和6年7月30日発表の病害虫発生注意報第1号参照
- ・防除指針：56 ページ参照



図 19 ダイズ吸実性カメムシ類
 (左)イチモンジカメムシ
 (中)トゲシラホシカメムシ
 (右)ホソヘリカメムシ

6 ハダニ類

- (1) 予報内容 発生量：並
- (2) 予報の根拠
- ・ 8月25日調査の被害株率は8.7%で、平年（17.0%）より低かった。（－）
 - ・ 9月30日にかけての気温は高いと予想されている。（＋）
 - ・ 9月30日にかけての降水量は平年並と予想されている。（±）
- (3) 防除対策
- ・ 高温・乾燥条件下では短期間で増殖し、被害が多発する。ほ場でハダニの被害が確認され、高温・乾燥条件が続くと予想された場合は、薬剤による防除を行う。
 - ・ 防除指針：55 ページ参照



図20 ハダニ被害葉

Ⅲ 野菜

1 ハスモンヨトウ

- (1) 予報内容 発生量：並～やや多い
- (2) 予報の根拠
- ・ フェロモントラップによる6月5半旬～7月2半旬の第一世代成虫の誘殺数は平年より多かった（図18）。（＋）
 - ・ フェロモントラップによる7月5半旬～8月4半旬の第二世代成虫の誘殺数は162頭で、平年並（189頭）であった（図18）。（±）
 - ・ 9月30日にかけての気温は高い予想されている。（＋）
- (3) 防除対策
- ・ 防除指針：67～134 ページのハスモンヨトウの項参照

2 ネキリムシ類（タマナヤガ、カブラヤガ）

- (1) 予報内容 発生量：多い
- (2) 予報の根拠
- ・ フェロモントラップによる8月1半旬～5半旬の誘殺数は、タマナヤガが45頭で平年（27.4頭）より多く、カブラヤガも75頭で平年（52頭）より多かった。
- (3) 防除対策
- ・ ほ場周辺の雑草は、播種・定植前に除去する。
 - ・ 定期的にはほ場を見回り、食害の早期発見に努める。
 - ・ 防除指針：70～130 ページのネキリムシ類の項参照

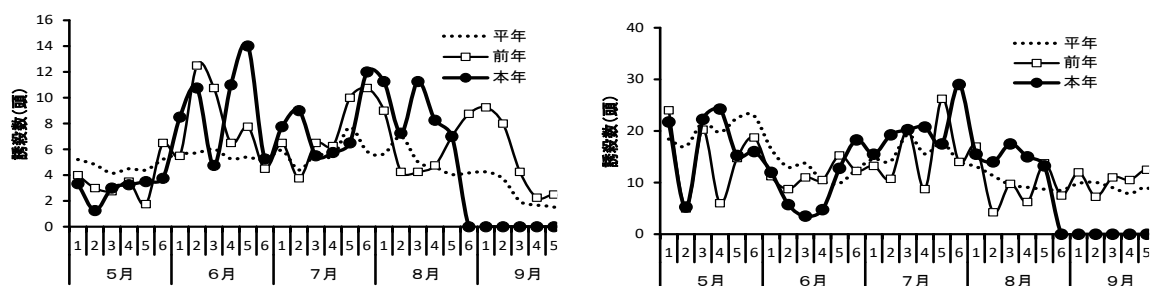


図21 フェロモントラップへのタマナヤガとカブラヤガの誘殺数の推移
（左：タマナヤガ 右：カブラヤガ）

3 タバコガ類

(1) 予報内容 発生量：少ない

(2) 予報の根拠

- ・フェロモントラップによる7月6半旬～8月5半旬の誘殺数はタバコガが8.7頭で平年（52.7頭）よりやや少なく、オオタバコガは23.3頭で平年（58.0頭）より少なかった。（－）
- ・9月30日にかけての気温は高いと予想されている。（＋）
- ・9月30日にかけての降水量は平年並と予想されている。（±）

(3) 防除対策

- ・防除指針：67～128ページの野菜のタバコガ類の項参照

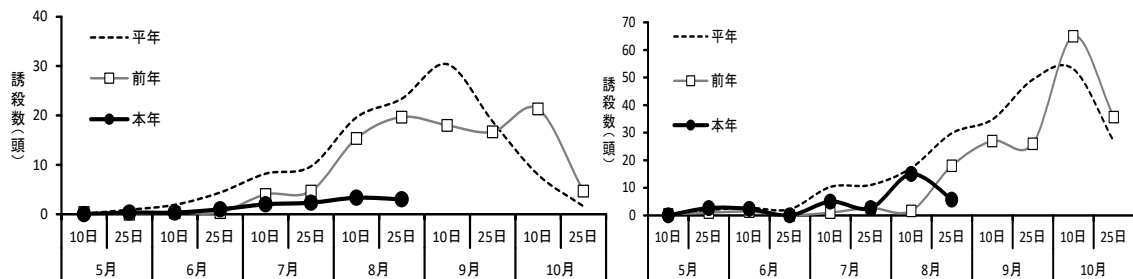


図22 フェロモントラップによるタバコガとオオタバコガの誘殺数の推移
(左：タバコガ 右：オオタバコガ)

4 白ねぎのさび病

(1) 予報内容 発生量：並

(2) 予報の根拠

- ・8月25日調査の発病株率は0%で、平年（0.8%）並に低かった。（±）
- ・9月30日にかけての気温は高いと予想されている。（－）
- ・9月30日にかけての降水量は平年並と予想されている。（±）

(3) 防除対策

- ・気温が下がってくると発病が増えるので、定期的に予防剤を散布するとともに、発生がみられた場合は治療剤を散布する。
- ・防除指針：97ページ参照



図23 さび病の葉の病徴（夏胞子）

5 白ねぎの軟腐病

(1) 予報内容 発生量：並

(2) 予報の根拠

- ・8月25日調査の発病株率は0%で、平年（1.2%）より低かった。（－）
- ・9月30日にかけての気温は高いと予想されている。（＋）
- ・9月30日にかけての降水量は平年並と予想されている。（±）

(3) 防除対策

- ・多湿は場で発生が多いので、排水対策を徹底し、降雨後は速やかに排水する。
- ・発病株は速やかに抜き取ってほ場外に持ち出し、適切に処分する。
- ・薬剤散布は発生初期の防除に努め、必ず展着剤を加用して、株元まで薬液が十分に付着するよう丁寧に散布する。
- ・防除指針：98ページ参照

6 白ねぎの黒斑病・葉枯病

- (1) 予報内容 発生量：並
- (2) 予報の根拠
- ・ 8月25日調査の発病株率は2.4%で、平年(11.7%)より低かった。(－)
 - ・ 9月30日にかけての気温は高いと予想されている。(＋)
 - ・ 9月30日にかけての降水量は平年並と予想されている。(±)
- (3) 防除対策
- ・ さび病やネギアザミウマ、ネギハモグリバエ等の病害虫の被害は本病の発生を助長するため、他の病害虫を含めて薬剤防除を計画的に実施するとともに、高温時の土寄せを避けるなど、葉先枯れの防止に努める。
 - ・ 防除指針：97～98 ページ参照



図24 黒斑病被害葉

7 白ねぎのネギアザミウマ

- (1) 予報内容 発生量：多い
- (2) 予報の根拠
- ・ 8月25日調査の被害株率は73.6%と平年(47.2%)より高かった。(＋)
 - ・ 9月30日にかけての気温は高いと予想されている。(＋)
 - ・ 9月30日にかけての降水量は平年並と予想されている。(±)
- (3) 防除対策
- ・ 土寄せ毎に殺虫粒剤を施用し、密度が低い状態を維持する。被害が多くみられる場合は、散布剤で随時防除を行う。薬剤抵抗性の発達を防ぐため、作用機作の異なる剤を施用する。
 - ・ 防除指針：99～100 ページ参照



図25 ネギアザミウマ被害葉

8 白ねぎのネギハモグリバエ

- (1) 予報内容 発生量：少ない
- (2) 予報の根拠
- ・ 8月25日調査の被害株率は0%と平年(19.2%)より低かった。(－)
 - ・ 9月30日にかけての気温は高いと予想されている。(＋)
 - ・ 9月30日にかけての降水量は平年並と予想されている。(±)
- (3) 防除対策
- ・ 土寄せ毎に殺虫粒剤を施用し、密度が低い状態を維持する。被害が多くみられる場合は、散布剤で随時防除を行う。薬剤抵抗性の発達を防ぐため、作用機作の異なる剤を施用する。
 - ・ 防除指針：99 ページ参照



図26 ネギハモグリバエの産卵痕(左)と幼虫による被害(右)

9 白ねぎのシロイチモジヨトウ

(1) 予報内容 発生量：並

(2) 予報の根拠

- ・フェロモントラップによる7月6半旬～8月5半旬の誘殺数は125.2頭で、平年(133.5頭)並であった。(±)
- ・9月30日にかけての気温は高いと予想されている。(＋)
- ・9月30日にかけての降水量は平年並と予想されている。(±)

(3) 防除対策

- ・防除指針：100 ページ参照



図27 5 齢幼虫(左)と成虫(右)

IV 果樹

1 果樹のカメムシ類

(1) 予報内容 発生量：多い

(2) 予報の根拠

- ・フェロモントラップによる7月4半旬～8月3半旬のチャバネアオカメムシの誘殺数は159.6頭で、平年(7.6頭)より多かった。(＋)
- ・9月30日にかけての気温は高いと予想されている。(＋)

(3) 防除対策

- ・令和6年5月23日発表の病害虫発生注意報第1号参照
- ・防除指針：りんご140～141、143～145 ページ、日本なし152、155～156 ページかき167 ページ参照



図28 チャバネアオカメムシの成虫(左)と卵(右)

2 りんごの褐斑病

(1) 予報内容 発生量：並

(2) 予報の根拠

- ・現在までの発生量はほぼ平年並であった。(±)
- ・9月30日にかけての降水量は平年並と予想されている。(±)

(3) 防除対策

- ・発生がみられる園地や台風等風雨後には、トップジンM水和剤(1,500倍、収穫前日まで)を散布する。
- ・主枝や垂主枝から発生している新梢を適宜整理するとともに、枝つりや支柱入れを行い、薬剤の到達性を高める。
- ・防除指針：136～138、142～143ページ参照



図29 褐斑病の初期病斑(左)と進行した病斑(右)

3 りんごの炭疽病

- (1) 予報内容 発生量：やや少ない
- (2) 予報の根拠
 - ・現在までの発生量は平年と比べて少なかった。(－)
 - ・9月30日にかけての降水量は平年並と予想されている。(±)
- (3) 防除対策
 - ・り病した果実は見つけ次第、園地外に持ち出して処分する。
 - ・発生の多い園地では、オーソサイド水和剤 80 (800倍、収穫前日まで) を散布する。
 - ・防除指針：136、138、142～143 ページ参照



図 30 炭疽病のり病果

4 りんごのハダニ類

- (1) 予報内容 発生量：やや多い
- (2) 予報の根拠
 - ・現在までの発生量は平年並であった。(±)
 - ・9月30日にかけての気温は高いと予想されている。(＋)
- (3) 防除対策
 - ・園地の草刈りを徹底し、下草での増殖の低減に努める。
 - ・殺ダニ剤の散布前には草刈りを行い、ハダニ類が樹上へ移動した後に殺ダニ剤を散布する。
 - ・殺ダニ剤は散布むらにより効果、残効が低下するので、丁寧に散布する。
 - ・ハダニ類は高温・乾燥が続くと急増するので、園地の発生状況に注意し、発生がみられた際は早期防除に努める。
 - ・防除指針：139、141～142、144～145 ページ参照

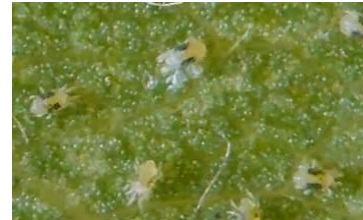


図 31 ナミハダニの成虫

5 りんごのカイガラムシ類

- (1) 予報内容 発生量：多い
- (2) 予報の根拠
 - ・現在までの発生量は平年と比べて多かった。(＋)
 - ・9月30日にかけての気温は高いと予想されている。(＋)
- (3) 防除対策
 - ・被害果は見つけ次第除去し、園地外に持ち出して処分する。
 - ・防除指針：140～141、143～145 ページ参照



図 32 カイガラムシ類による被害果

6 日本なしの黒星病

- (1) 予報内容 発生量：やや少ない
- (2) 予報の根拠
 - ・現在までの発生量は平年と比べて少なかった。(－)
 - ・9月30日にかけての降水量は平年並と予想されている。(±)
- (3) 防除対策
 - ・り病した果実や葉は、見つけ次第除去し、園地外に持ち出して処分する。
 - ・発生が多い場合は、収穫前にオーソサイド水和剤 80 (1,000倍、収穫3日前まで) を散布する。
 - ・防除指針：148～151、154 ページ参照



図 33 黒星病のり病果

7 日本なしのハマキムシ類

- (1) 予報内容 発生量：多い
- (2) 予報の根拠
 - ・フェロモントラップによる7月4半旬～8月3半旬の誘殺数は2.3頭で、平年(0.5頭)より多かった。(＋)
 - ・9月30日にかけての気温は高いと予想されている。(＋)
- (3) 防除対策
 - ・被害葉は見つけ次第除去し、園地外に持ち出して処分する。
 - ・発生の多い園地では、アグロスリン水和剤(2,000倍、収穫前日まで)を散布する。
 - ・防除指針：148、151、155～156ページ参照

8 日本なしのナシヒメシンクイ

- (1) 予報内容 発生量：多い
- (2) 予報の根拠
 - ・フェロモントラップによる7月4半旬～8月3半旬の誘殺数は9.6頭で、平年(6.3頭)より多かった。(＋)
 - ・9月30日にかけての気温は高いと予想されている。(＋)
- (3) 防除対策
 - ・被害果は見つけ次第除去し、園地外に持ち出して処分する。
 - ・発生の多い園地では、アグロスリン水和剤(2,000倍、収穫前日まで)を散布する。
 - ・防除指針：148、151～152、155～156ページ参照

9 日本なしのハダニ類

(1) 予報内容 発生量：並

(2) 予報の根拠

- ・現在までの発生量は平年と比べて少なかった。(－)
- ・9月30日にかけての気温は高いと予想されている。(＋)

(3) 防除対策

- ・園地の草刈りを徹底し、下草での増殖の低減に努める。
- ・殺ダニ剤の散布前には草刈りを行い、ハダニ類が樹上へ移動した後に殺ダニ剤を散布する。
- ・殺ダニ剤は散布むらにより効果、残効が低下するので、丁寧に散布する。
- ・ハダニ類は高温・乾燥が続くと急増するので、園地の発生状況に注意し、発生がみられた際は早期防除に努める。
- ・防除指針：152～153、155～156 ページ参照



図34 ナミハダニの成虫

10 日本なしのカイガラムシ類

(1) 予報内容 発生量：多い

(2) 予報の根拠

- ・現在までの発生量は平年と比べて多かった。(＋)
- ・9月30日にかけての気温は高いと予想されている。(＋)

(3) 防除対策

- ・発生園地では、翌春の発芽前の暖かい日を選びマシン油乳剤を散布する。
- ・多発樹では、マシン油乳剤散布前にワイヤーブラシなどで削り落とす。
- ・防除指針：151～152、155～156 ページ参照



図35 ナシマルカイガラムシによる被害果

11 ぶどうのべと病

(1) 予報内容 発生量：並

(2) 予報の根拠

- ・現在までの発生量は平年並であった。(±)
- ・9月30日にかけての降水量は平年並と予想されている。(±)

(3) 防除対策

- ・り病した葉などは、見つけ次第除去し、園地外に持ち出して処分する。
- ・発生がみられた際は、銅水和剤又は硫黄・銅水和剤（収穫前日数は制限なし）を散布する。ただし、高温時にICボルドー48Q及びサンケイ園芸ボルドーを散布すると、葉害が発生するおそれがあるので注意する。
- ・防除指針：158～162ページ参照

12 かき（三社）のフジコナカイガラムシ

- (1) 予報内容 発生量：並
- (2) 予報の根拠
 - ・フェロモントラップによる7月4半旬～8月3半旬の誘殺数は47.5頭で、平年（101.5頭）より少なかった。（－）
 - ・9月30日にかけての気温は高いと予想されている。（＋）
- (3) 防除対策
 - ・殺虫剤は散布むらを生じないように丁寧に散布する。
 - ・9月上旬に主幹や主枝の基部に古紙や新聞紙を巻きつけ（バンド誘殺）、12～1月にこれらを外し、巻きつけた部分の粗皮を集めて処分する。
 - ・防除指針：164、166～167ページ参照



図 36 フジコナカイガラムシの雌成虫

13 もものせん孔細菌病

- (1) 予報内容 発生量：並
- (2) 予報の根拠
 - ・現在までの発生量は平年並であった。（±）
 - ・9月30日にかけての降水量は平年並と予想されている。（±）
- (3) 防除対策
 - ・病原細菌の越冬密度を低下させるため、9月中旬～下旬にICボルドー412（30倍）を2回散布する。
 - ・台風等強風が予想される場合は、事前にICボルドー412（30倍）を散布する。
 - ・防除効果を高めるため、散布前には秋季せん定を実施する（作業終了後、速やかに切り口に保護材を塗布する）。
 - ・防除指針：169、172ページ参照

14 ももの灰星病

- (1) 予報内容 発生量：並
- (2) 予報の根拠
 - ・現在までの発生量は平年並であった。（±）
 - ・9月30日にかけての降水量は平年並と予想されている。（±）
- (3) 防除対策
 - ・樹上又は地面に落果している被害果は、被害果内で病原菌が越冬し、翌年の伝染源となるので、見つけ次第速やかに園外に持ち出し処分する。
 - ・防除指針：169、172ページ参照



図 37 灰星病のり病果

V 花き・球根

1 きくのアブラムシ類

- (1) 予報内容 発生量：少ない
- (2) 予報の根拠
- ・ 8月25日調査の1葉虫数は0頭で、平年(0.2頭)より少なかった。(－)
 - ・ 9月30日にかけての気温は高いと予想されている。(＋)
 - ・ 9月30日にかけての降水量は平年並と予想されている。(±)
- (3) 防除対策
- ・ 防除指針：188～212 ページ参照

2 ハスモンヨトウ

- (1) 予報内容 発生量：並～やや多い
- (2) 予報の根拠
- ・ フェロモントラップによる6月5半旬～7月2半旬の第一世代成虫の誘殺数は平年より多かった(図18)。(＋)
 - ・ フェロモントラップによる7月5半旬～8月4半旬の第二世代成虫の誘殺数は162頭で、平年並(189頭)であった(図18)。(±)
 - ・ 9月30日にかけての気温は高いと予想されている。(＋)
- (3) 防除対策
- ・ 防除指針：188～212 ページのハスモンヨトウの項参照

3 タバコガ類

- (1) 予報内容 発生量：少ない
- (2) 予報の根拠
- ・ フェロモントラップによる7月6半旬～8月5半旬の誘殺数はタバコガが8.7頭で平年(52.7頭)よりやや少なく、オオタバコガは23.3頭で平年(58.0頭)より少なかった(図22)。(－)
 - ・ 9月30日にかけての気温は高いと予想されている。(＋)
 - ・ 9月30日にかけての降水量は平年並と予想されている。(±)
- (3) 防除対策
- ・ 防除指針：194～212 ページのオオタバコガ、タバコガの項参照

○適切な農薬を選択するとともに、使用量・時期・回数等の遵守に努めましょう

農薬を使用する場合は、登録や防除予定の作物に適用のある農薬を選択することが必要です。農薬を使用する際には、使用前に容器等のラベルの内容を確認し、農薬の使用量、希釈倍率、使用時期、回数等の使用基準を守りましょう。

○周辺作物や近隣住宅等への農薬の飛散防止対策に努めましょう

農薬は適用作物以外に使用できません。

また、周辺作物への農薬飛散を防止する取組が必要です。風向き等に気をつけるなど飛散防止への注意を払いましょう。

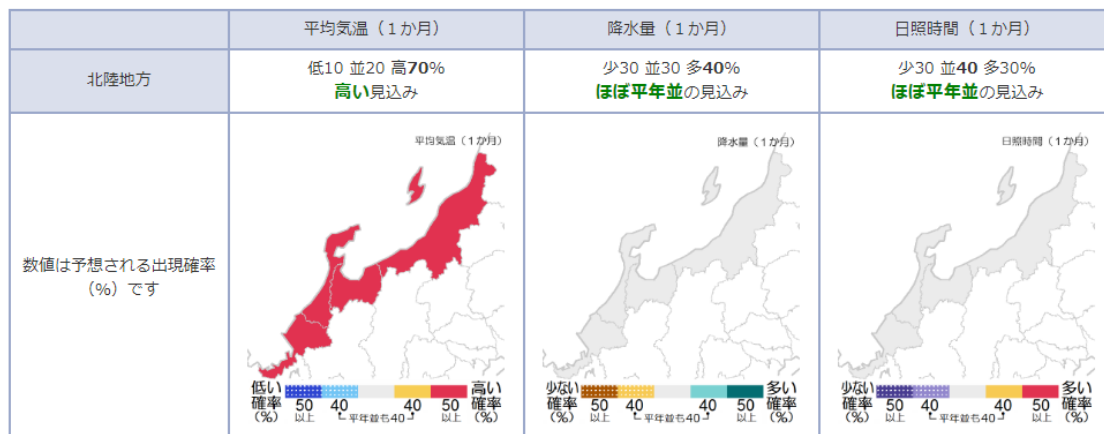
さらに、農薬を散布する場合は近隣住宅や農家、養蜂家に対して農薬散布計画等の情報についても周知に努めましょう。

北陸地方 1か月予報
(予報期間 8月31日から9月30日)

8月29日
新潟地方气象台 発表

<予想される向こう1か月の天候>

- ・暖かい空気に覆われやすいため、向こう1か月の気温は高いでしょう。



富山県農林水産総合技術センター 農業研究所 病理昆虫課
TEL 076-429-2111
FAX 076-429-7974
情報参考 URL <https://taffrc.pref.toyama.jp/nsgc/nougyou/>

